

平成23年度

東日本大震災

被災組合員支援事業実施報告書

前を向く

はじめに · · · · ·	1 ページ
I 趣旨・目的 · · · · ·	1 ページ
II 事業実施概要 · · · · ·	1 ページ
III 実施方法 · · · · ·	2~11 ページ
IV 復興の様子 · · · · ·	11~15 ページ
V 課題点 今後の展望 · · ·	16 ページ

平成24年3月

岩手県飲食業生活衛生同業組合

平成23年度東日本大震災被災組合員支援事業実施報告書

岩手県飲食業生活衛生同業組合

はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災大津波では、沿岸4支部（高田・大船渡・釜石・山田）の9割にあたる組合員が、店舗全壊・流出という想像を絶する大きな被害を受けました。

いち早い全国飲食業生活衛生同業組合連合会の支援をいただきましたが、どのような方向に進んだら良いか揺れ動くなか、まず組合員の結束を固めようと考え、被災組合員中心の炊き出し事業に着手しました。

まだまだ支援の届かない地域もあり、被災者の交流の場の提供・健康管理・孤独死予防など、炊き出しの効果は一目瞭然でした。さらに、組合員が準備から後片付けまで一緒に作業をし、心の内を話すことによって少しづつ前を向くことができたと感じております。無いないづくしの今、復興には程遠い現状ですが、崩壊寸前の支部が以前にも増して結束が強くなり新しい組合員の入会も見られ良い方向に向いてきております。

I 趣旨・目的

沿岸4支部9割に当たる組合員が店舗を喪失し、今もなお多くの組合員は再建の目途がたっていない。本事業は、沿岸部を中心とした組合員の復興支援相談を実施するとともに、被災組合員が仮設店舗等で行なう営業支援と被災組合員が被災地で行なっている自立再建への支援を図ることを目的とする。

II 事業実施概要

1 検討会・打合せ会実施

理事を中心に支援内容・炊き出し等打合せをする。

2 お見舞い・支援物資を届けながら被災地組合員から情報収集をする。

3 被災地への弁当 宅配事業支援

軽ワゴン車3台を組合がレンタルし、被災地で営業を再開した組合員に貸付け、多くの仮設住宅街で生活する高齢者の食事作り困難者に対してお弁当宅配サービス事業の支援実施。

4 被災者対象の炊き出し事業実施

組合において準備した調理機材等を利用し、被災地において被災組合員を中心に炊き出しを行ない、支援の手が届かない小さな地域を中心に被災者に食事を提供した。

5 被災地で、被災組合員との懇談実施

組合執行部が中心になり被災地を訪れ、現状・支援要望等、聞き取りを実施。

III 実施方法

1 検討会・打合せ会

開催日時 平成 23 年 4 月 20 日
平成 23 年 9 月 19 日

平成 23 年 7 月 11 日
平成 23 年 11 月 29 日

2 お見舞い・支援物資を届けながら情報収集をする

4 月 山田・陸前高田・大船渡・釜石支部にお米・野菜等を届ける
8 月 全国飲食業生活衛生同業組合連合会からの支援物資「包丁・まな板セット」、
を沿岸 4 支部に届ける。



久慈支部・釜石支部へ
「包丁・まな板セット」
支援



3 被災地への弁当宅配事業支援

軽ワゴン車 3 台を組合がレンタルし、陸前高田支部に置いて、仮設住宅で生活する高齢者の食事作り困難者に対するお弁当宅配サービス事業を支援する。

その他、車の利用状況

- ① 市役所・各避難所等の倉庫にある物資の運搬
- ② 組合員の仮設店舗準備の為の建材・什器備品の調達運搬
- ③ 各種支援イベントへの移動 等々

※軽ワゴン車は弁当宅配以外にも多く利用されております。

4 被災者対象の炊き出し事業実施（5回）

組合でレンタルした調理機材、地元で調達した食材（できる限り被災地優先で調達）を利用し、被災組合員を中心に炊き出しを行ない、支援の手が届かない小さな地域を中心に被災者へ食事を提供した。

【1回目】※ 応援事業

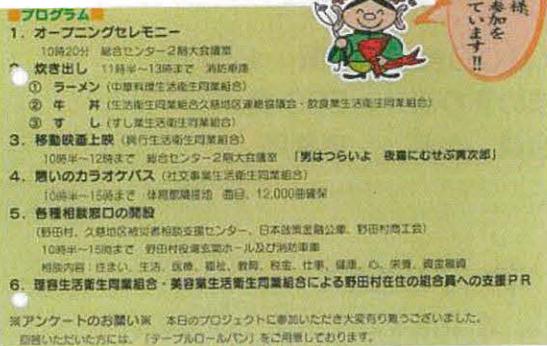
タイトル 暮らし再建・なりわい再生プロジェクト
実施日 平成 23 年 9 月 28 日（水）
実施場所 野田村役場
主 催 岩手県生活衛生同業組合 久慈地区連絡協議会
野田村 岩手県県北広域振興局 久慈保健所
内 容 牛丼 100 食 赤飯 100 食
参加者 被災組合員 9 名（※日当は岩手県生活衛生営業指導センター負担）
応援組合員 5 名 事務局

福興応援団 暮らし再建・なりわい再生プロジェクト

とき: 平成23年9月28日(水)

10:20~15:00

ところ: 野田村役場



事業のパンフレット



初めてでしたので、岩手県生活衛生営業指導センターの企画に参加させていただきました。
状況把握するのが先ではないかと考え、被災された方々の現状調査を致しました。

【 炊き出し風景 】

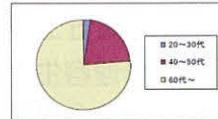


初めての炊き出しだしたが、さすがプロ集団、阿吽の呼吸で みごとな連携プレーです。
大盛況に元気をもらい、生き生きと掛け声よく全力投球しました。

炊き出しアンケート (被災者 123名対象)

9月28日 【暮らし再建・なりわい再生プロジェクト】

年代



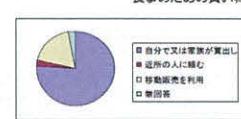
42名の男性に聞きました。

81名の女性に聞きました。

普段の食事はどうしていますか?



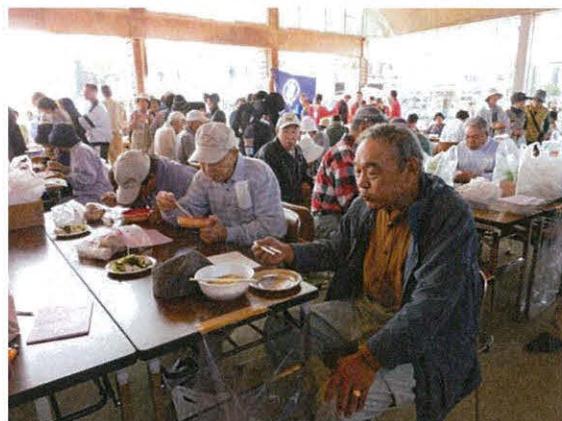
食事のための買い物はどうしていますか?



今回の支援事業についての感想・希望

- 感謝している (複数)
- まだ支援してほしい (複数)
- 仮設が店がほしい

被災者対象のアンケート (123名回収)



【2回目】

タイトル 心をリフレッシュ！ がんばっぺす山田
実施日 平成 23 年 10 月 10 日（月）
実施場所 山田コミュニティセンター
主 催 岩手県理容生活衛生同業組合 岩手県社交生活衛生同業組合
岩手県飲食生活衛生同業組合
内 容 チラシ寿司 200 食 牛丼 200 食 赤飯 150 食
鳥のから揚げ 200 食 さんまのすり身汁 500 食
参加者 被災組合員 15 名 応援組合員 4 名 事務局



〈紹〉 手を携えて

岩手県理容生活衛生同業組合
岩手県社交生活衛生同業組合
岩手県飲食生活衛生同業組合
◇3団体で共催し、多彩な催しを開催することができました。
◇参加された方々も陽だまりでゆっくり楽しんで下さいました。

【 炊き出し風景 】



山田支部の会員と



アンケートをお願いします。



どれがいいの？ お好きなものをどうぞ



天気も良く、すり身汁もおいしいわ



マア！おいしそうな赤飯！



すり身汁のポイントは・・・



選びやすいように並べてね。



あなたの漬物おいしいのよネ。



ドンドンお出しして。



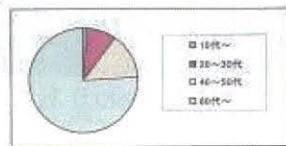
いそいで！裏方は大忙し。

被災者対象のアンケート結果

炊き出しアンケート（被災者 228名対象）

10月10日 【 心をリフレッシュ！がんばっぺっす山田 】

年代



49名の男性に聞きました。

179名の女性に聞きました。

普段の食事はどうしていますか？



今開いてほしいお店は？



その他 100円ショップ

その他 100円ショップ・風呂屋・手芸店

今日のような支援事業についての感想・希望

- ① 感謝している（複数）
- ② 忘れられないでいることが嬉しい。
- ③ 仮設に店がほしい。

【 アンケートをとったの見解 】

「今開いてほしいお店は？」

という項目を入れました。

◇スーパーという答えがダントンに多かったのですが、生活が落ち着いてくると飲食店・娯楽施設と心のオアシスが求められてくると思います。

飲食店の割合が多くあったことに力を戴きました。

【 感想・希望 】

◇3組合合同で開催できたことはとても良かった。

◇メニューが多彩で、前日から被災組合員が仕込みに頑張りました。

◇風除けの工夫をしたり、大量の調理の仕方を学んだり、普段経験しない新発見が沢山あり、学ぶことの多い炊き出しでした。

【3回目】

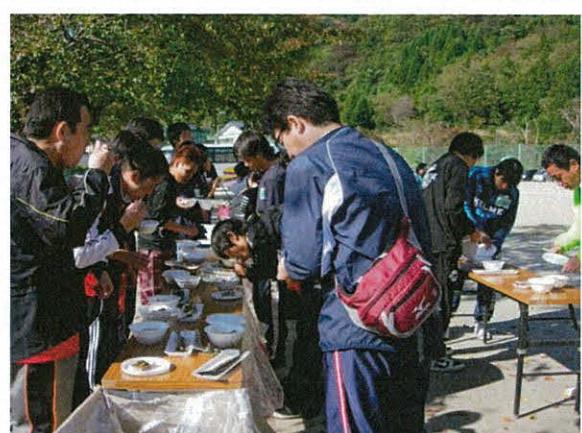
タイトル 陸上自衛隊第9音楽隊 IN 甲子学童クラブ
岩手県飲食業生活衛生同業組合釜石支部の炊き出し事業
実施日 平成23年10月29日(土)
実施場所 釜石市立甲子小学校
主 催 岩手県飲食生活衛生同業組合 釜石支部
内 容 ひつみ汁 250食 牛丼 500食 赤飯 100食
さんまのすり身汁 250食 甲子柿 100食
サンマ(焼き魚)
参加者 被災組合員 21名 応援組合員 2名 事務局

飲食業組合単独で開催しました。

地震発生から7ヶ月が経過し避難所は閉鎖され、全ての被災者は応急仮設住宅に入居しましたが、災害前の生活に戻れるような状況ではなく未だ支援を必要としている被災者が大勢おります。特に支援の手が届かない小さな仮設住宅を対象に活動したいと被災支部から話を持ち上がりました。地元の組合員が何回も話し合い、炊き出しの検討をしました。



釜石支部の皆さんと



うまい おかわりあるのかな?

【 炊き出し風景 】

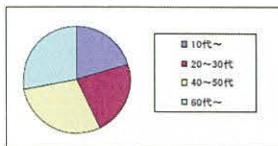


【被災者対象アンケート

被災者 220名対象

10月29日 【陸上自衛隊第9音楽隊 IN 甲子学童クラブ】

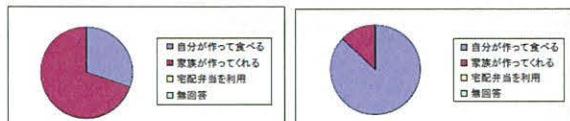
年代



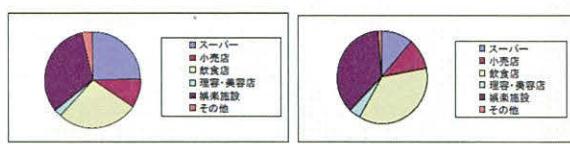
66名の男性に聞きました。

154名の女性に聞きました。

普段の食事はどうしていますか？



今開いてほしいお店は？



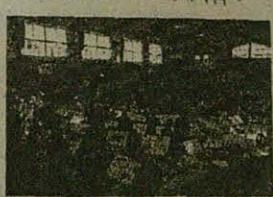
その他 スポーツ施設・釣具店

その他 デパート・衣料品店・子供服

地元の新聞記事

音楽や味覚満喫

甲子親子レクに被災者も



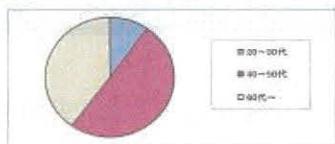
【今回のような支援事業についての感想・希望】

- ①感謝している（複数） ②交流の場となり嬉しい。
- ③手作りの漬物・焼き魚が美味しかった。
- ④ほどほどにやるなら歓迎します。（お店を再開しようとする人に申し訳ない。）

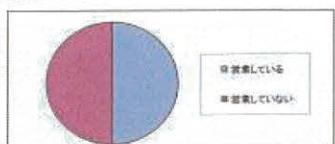
被災組合員対象 アンケート 被災組合員10名

10月29日 【釜石地区 組合員】

年代



現状について



営業していない方へ・営業再開を考えていますか。



【これから支援してほしいこと、困っていること】

- ①冷蔵庫が高くて買えない。
- ②大潮対策を早く考えてほしい。
- （怖くて、営業できない）
- ③壊れた店・家の解体に困っている。
- ④下水道設備が早く整備されることを願っている。
- ⑤資金が不足。
- ⑥なんでも支援していただけると助かる。
- ⑦炊き出しで少しでも働けて嬉しい。

※本当に参加してほしい組合員はまだ参加できずにいます。
今後も手を携えていきたい。

（支部長 談）

【4回目】

タイトル 頑張ろう岩手!! 頑張ろう大船渡!!
 秋の味覚満載・炊き出し
 実施日 平成23年11月12日(土)
 実施場所 末崎町 ふるさとセンター
 主 催 岩手県飲食生活衛生同業組合 大船渡支部
 共 催 大船渡飲食店組合
 内 容 芋の子汁 400食 炊き込みご飯 400食
 サンマ(焼き魚) 400食
 参加者 被災組合員 15名 応援組合員 3名 事務局



街の中心部から離れた末崎町の仮設住宅に避難されている方々と交流をしました。組合員が揃って挨拶をしたところ、参加者に励まされお店の再開を待っているとエールを送られました。



大きなサンマの焼きたては大好評で、焼き方は大忙し・大奮闘でした。
 海の食材には特別の思いが感じられ、お味もグー！ 参加者に笑顔が広がります。

【 炊き出し風景 】



サンマはジュージュー



芋の子汁はアツアツ熱



組合員のハートも負けずに熱い



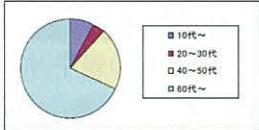
身についたおもてなしの心、優しい気持ちが伝わります。 笑顔 笑顔の炊き出しだす。

炊き出しアンケート（被災者 100 名対象）

※末崎町内 仮設住宅に住んでいる人が主

11月12日 【 頑張ろう岩手!! 頑張ろう大船渡!! 】

年代



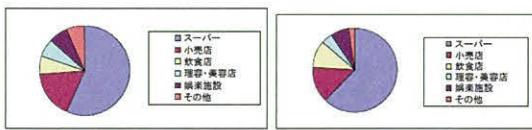
27名の男性に聞きました。

73名の女性に聞きました。

普段の食事はどうしていますか？



今開いてほしいお店は？



その他 土木・小道具屋

その他 手芸店・洋服屋

今回のような支援事業についての感想・希望

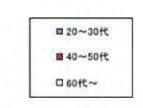
- ① 継続してほしい。 ②お茶・ケーキの支援もほしい。
- ③ 気分転換となり感謝している。 ④何でも良いので、店をだしてほしい。
- ⑤ 秋刀魚（焼き魚）がとても美味しかった。
- ⑥ 家族分もらえると嬉しいのですが。

炊き出しアンケート

（被災組合員 10 名）

11月12日 【 大船渡地区 組合員 】

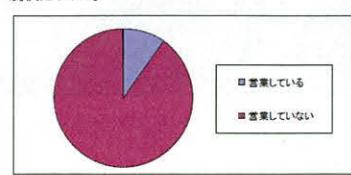
年代



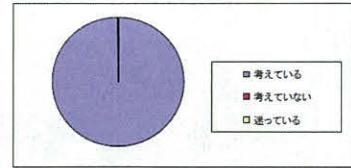
これから支援してほしいこと 困っていること。

- ① 設備資金の問題に悩んでいる。
- ② 生活資金がない。
- ③ 震災前の顧客数が来店するか心配
- ④ 資金不足
- ⑤ 調理用具の支援がほしい。
- ⑥ 個人自営業者にも義援金を考えてほしい。

現状について



営業していない方へ・営業再開を考えていますか。



◇元気のない組合員も、忙しくなるにつれ活気を取り戻します。声かけも良くなつて笑顔も出てきました。

◇準備から後始末と仲間が何回も集い、胸のうちを話すことができました。

～すぐ復興には繋がらなくても事業実施により少しでも前を向くことができました。～

【5回目】

タイトル 上中島仮設住宅応援炊き出し事業
実施日 平成23年11月27日(日)
実施場所 釜石市上中島仮設住宅前
主 催 岩手県飲食生活衛生同業組合 釜石支部
内 容 さけ・いくら親子丼 300食 さけアラ汁 300食
参加者 被災組合員 17名 応援組合員 3名 事務局

今回は釜石支部から計画が出されました。

まだまだ支援の手が届かない小さな仮設住宅があります。報道とか派手さはないが、心を届けたい、是非炊き出しをしたいと要望がありました。支部も被災当初はバラバラで解散も考えましたが、炊き出しによって結束が強くなり、新会員も増えました。徐々に良い方向を向いてきています。

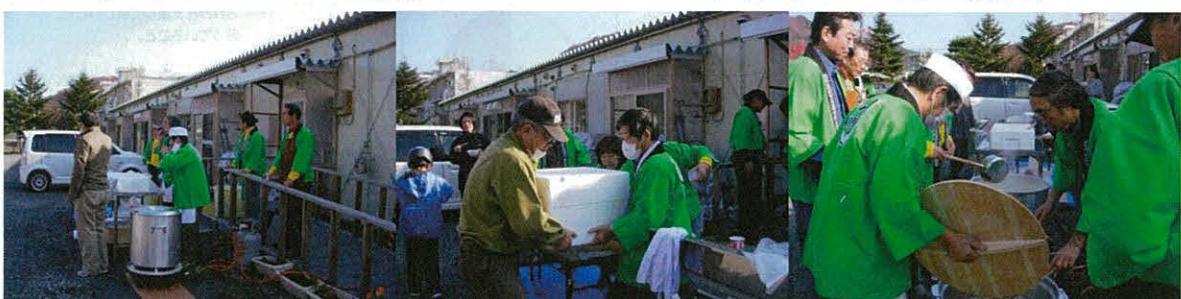
【 炊き出し風景 】



強い絆で結ばれている釜石支部



自慢の鮭・いくらの親子丼



寒くなってしまったが、たくさん的人が待っていてくれました。



あら汁がなかなか煮立たず、あせりぎみ。
大量調理のコツを勉強しました。

【仮設住宅にはお年寄りが多く】

- ◇私達のために来てくれてありがとうございます。
 - ◇おもいがけないおもてなししがとても嬉しい。
 - ◇郷土料理の鮭汁・鮭いくらの親子丼に涙がとまりません。
- 感謝 私達もうれしく思いました。

5 被災組合員との懇談会実施

開催日時	開催場所	参加人数
平成 23 年 12 月 20 日	大船渡市	15 名
平成 23 年 12 月 20 日	釜石市	15 名
平成 24 年 2 月 19 日	平泉町	53 名
平成 24 年 3 月 8 日	大船渡市	7 名

※2月19日は、融資に関する質問・要望が多かったので、日本政策金融公庫様による、融資に関するお話をいただいております。

IV【復興の芽】少しずつ

盛岡市で再スタート

陸前高田支部 熊谷さん「俺つ家」

山田支部 横田さん「魚河岸」

大船渡支部

大船渡 屋台村で 飲食店の灯を

岩手日報 2011年(平成23年)12月20日(火曜日)

屋台村復興の灯輝く



20日オープンする大船渡屋台村の赤い門。及川雄右組合長は「飲食店の明かりを復興の象徴」と意気込む

大船渡

20店、きょうオープン

運営サポーターも募集

飲食店の明かりから町の復興を。大船渡市大船渡町に20日、仮設飲食店街「大船渡屋台村」がオープンする。大船渡・陸前高田両市で被災した店主のか、震災を機に転職した「新規出店組」も。おでんにし、好み焼き、中華。多彩な20店舗が軒を連ね、地域の新たなぎわいを創出しそうだ。

屋台村運営の中心となるのは、市内でホテルを経営する及川雄右・大船渡地区飲食店組合長。及川さんら有志6人が出資して新たに有限責任事業組合(及川組合長)を設立し、飲食店組合加盟店以外にも、5人の店主が新しく店を出す。

営していた兄洋一さんは4年前に病気で他界したが、「生きていれば絶対ここで店をやったはず」と、故郷の大船渡に生まれ故郷の大船渡に戻り、中華料理店「老上海」を出店する。大船渡町で焼き肉店を経た。

花川教勇さん(60)は震災を機に仙台市から大船渡に移り、JR大船渡駅前にある「おみふなと夢商店街」で飲食店を開いていたが、震災で倒壊した建物の敷地に中小企業基盤整備機構が建物5棟を整備。入り口には大きな赤い門が建てられ、各店舗を紹介した20個の看板を掲げた。全体でも、約200店に掲載している。

国道45号からやや海側の約1321平方㍍の敷地に中小企業基盤整備機構が建物5棟を整備。入り口には大きな赤い門が建てられ、各店舗を紹介した20個の看板を掲げた。全体でも、約200店に掲載している。

運営資金を月額1万円援助するサポーターも募集している。個人、団体、法人を問わない。詳細は屋台村ホームページ(<http://www.010.02710.com/>)

及川組合長による説明会では、飲食店組合加盟60店のうち、被災を免れたのは3店のみ。市内

JR大船渡駅(休止中)
大船渡駅新(休止中)
大船渡北小
おみふなと夢商店街
加茂神社 大船渡小
大船渡村

大船渡支部長 及川さん



大船渡プレハブ横丁で営業する
< 北の味処 鮎不知 >

キッチンカーで発進
釜石支部 福士さん
三浦さん

陸前高田元気会
仮設共同店舗オープン
< 食菜工房 >



大船渡から奥州市水沢で開業 熊谷さん

被災組合員の声

- ☆ 店に来る前の道が 暗い・怖いといわれます。早く街灯が増えてほしい。
 - ☆ 倒壊した建物などがキレイになればと願います。
 - ☆ 他地域で営業を考えているが、冷蔵庫がほしい。
 - ☆ 営業を迷っている。調理道具が揃わない。
 - ☆ 廉価機器・道具類何でも支援がほしい。
 - ☆ 電子レンジがあればよいが、買えない。
 - ☆ 電化製品は高くて揃えるのが大変。
 - ☆ 今までの3分の1ほどの広さで営業を再開しました。しかし、店に住所がないということで保障がなく、市から10万円いただいただけです。
組んで立ち上げたところは営業に必要な品物、家賃まで無料と聞いております。その差は何なのでしょうか。
 - ☆ 自宅を流された方には、たくさん援助の手が伸べられている。また、店を出される方もないにかしら援助があると聞いている。私は一人世帯で、突然収入もなくなり、支援もありません。事業再開も勿論考えないわけではありませんが生活の建て直しが先です。
誰に、どう話し理解してもらえるか解りません。
 - ☆ 営業する土地があれば。

復活へ40年前看板料理



仮設商店街で「洋食あべ」を再開した阿部亀寿三さん＝釜石市

メニューは40年前に店を始めたときの看板料理だったとか。かつて使ったコース料理も食べ、新たに加えた炒めご飯の2品だけ。初心に戻つたつもりでやるしがねえ」。阿部さんの声は力強い。釜石再開したのは、釜石市で被災した約30店舗が入居する「青葉公園仮設商店街」。アレハ水。店内はベトロだけでワインが床に散乱していた。

阿部さんは40年前に釜石市の中心部に店を開いた。「体も頭も動かさねば飲食店になる」。地元の肉や魚を使ったコース料理も作り、新商品だけ炒めご飯の2品だけ。初心に戻つたつもりでやるしがねえ」。阿部さんは、「洋食あべ」が昨年末、仮設商店街で4ヵ月ぶりに営業を再開した。自宅も店も再びで全壊し、店主の阿部亀寿三さん(74)は仮設住宅から毎日、自転車で仮設店舗に通つ。

釜石市で市民に親しまれてきた洋食屋「洋食あべ」が昨年末、仮設商店街で4ヵ月ぶりに営業を再開した。自宅も店も再びで全壊した店主の阿部亀寿三さん(74)は仮設住宅から毎日、自転車で仮設店舗に通つ。

のべ
石食
釜洋

9ヶ月ぶり営業再開

74歳店主「初心に戻る」

の月に仮設店舗に入居。狭い部屋、仕事もしない。「体も頭も動かさねば飲食店になる」。

「洋食屋も十分でいい。料理中、煙が充満してしまって、料理器具も十分でない」と表の下には「しごうねえがら、今はすぐやうにしがき」。

自慢の料理は自家製デミグラスソースを使用した肉料理。鶏肉でさるオーブンはまだな

い。店内に張られた

「またデミグラスソ

ースの料理を出してえ

とんかつ定食のメニュー

な」。店内に張られた

「またデミグラスソ

ースの料理を出して

V 課題点・今後の展望

課題点

- ① 中小企業基盤整備機構の仮設店舗建設が予想以上に遅く、避難所への災害救助法に基づく給食支援活動や初盆法要に伴う食事会や年忌法要に伴う食事会等の商機を逸した。
- ② 沿岸支部自体が壊滅的な被害を受けたため、被災業者のニーズ把握が困難を極めた。
- ③ 被災地のニーズが時間の経過とともに変わっていくのに、充分対応できなかつた。
- ④ 仮設店舗に厨房機器の設備投資を行っても、当面2年間貸付という制約があると、資金回収できるかとの不安の声がある。

今後の展望

被災地の復興計画をみると、地盤沈下の嵩上げ等から、店舗再開まで5年以上を要する地域も多く、被災業者に再開意欲を持たせ続ける取組が必要である。炊き出しイベントは、他の生衛業者や行政と連携することにより、被災業者支援のみならず、被災者の交流の場の提供や健康管理、引きこもりによる孤独死予防などにも効果が見られる。

- ① 社会貢献事業の実施により、被災地支援の取り組みに共感する新規組合員加入にも効果が見られる。
- ② 現在の仮設商店街では、飲食店と学習塾がいっしょに入ったため、飲食業の営業活動に制約が課せられているところもある。生衛業者だけの仮設店舗レンタルも検討していきたい。

今後も被災地復興の時まで、継続して被災事業者支援事業を実施していく予定です。



全国飲食業生活衛生同業組合連合会を通じ
全国の飲食業生活衛生同業組合から多大なる「支援」
をいただきました。
「包丁・まな板セレクト」・義援金をいち早くお送り
いただき被災地に届けております。